

くらもり 蔵守

～歴史を守り発展～
活気あふれる新名所～



宝城町石巻市はかつて、北上川の水運と海運また漁業の重要なポイントとして栄えていました。江戸時代には、北上川上流の地域すべてから米が集まり、十七層もの米蔵が立ち並び、江戸との交易が盛んに行われていました。東北と江戸との結節点として繁栄していました。また、大正から戦代にかけては世界三大漁場の一つである釜ヶ崎・三陸沖の水産資源を漁かし、漁業の町として栄えてきました。しかし、311の震災の津波で多くの家が被害を受けました。震災後の2,3年の間に住宅の撤去が行われました。さまざまな理由で取り壊せなかった家が空き家になり放棄されているものもあります。また、石巻の中心市街地も過疎化によりシャッターを閉める店舗が多くなって、昔のような賑わいは見られなくなりました。

そこで、石巻の市街地にもっと多くの観光客に訪れてもらい、津波石巻の活気を取り戻すために、空き家を利用して、石巻の歴史を知り、体験できるまちの駅「蔵守」を計画しました。「蔵守」という名称は江戸時代石巻に多数ある蔵を管理し、守っていた場所を指

しています。今回設計する「蔵守」には、石巻の歴史を守っていくという意味をこめ、「蔵守」を復活させることで街を再建していきたいと想っています。「蔵守」の構想は、江戸時代から明治時代の石巻の風情を再現した蔵を中心とした水運エリア、2つの建築物と石巻の歴史ある建築を紹介する石巻建築史エリア、そしてオープンテラスとなっています。以前は、店舗兼住宅（洋館店）として用いられていた建物を再活用して施設を設計しました。敷地は、オープンテラスと広場が中心に位置し、その周りに各エリアが配置されていますが必ず広場を通るよう計画しており、交流の場としての価値が高くなります。市街にも利用してもらうため、軽食を提供できるオープンテラスを設けています。たくさんの人々が集まり、復興の拠点となる場所となることを願っています。

「蔵守」が建てられるこの場所は、石巻駅から北上川へつづく石巻のメインストリートの一画です。この一画に隣接して2つの歴史的建造物が道路をはさんで並び立っています。どちらも、震災で2階近くまで潰

れました。その一つ「軽業丸」は、昭和5年に石巻で初となる百貨店として建てられ、最上層には北上川を望める食堂がありました。当時の石巻の活気と洋風建築としてのデザインをこれからも伝えたいために貴重建築物となっています。隣には関東大震災後の近代復興様式の洋風モダンな建築物があり、津波石巻の人が集まる中心地でした。この場所に「蔵守」を建てることで観光地としての価値を高め再び石巻を盛りあげます。「軽業丸」も安堵としてだけでなく、将来的には、石巻の総合案内所、レストランとしての機能を持たせ蔵守との融合を目指します。

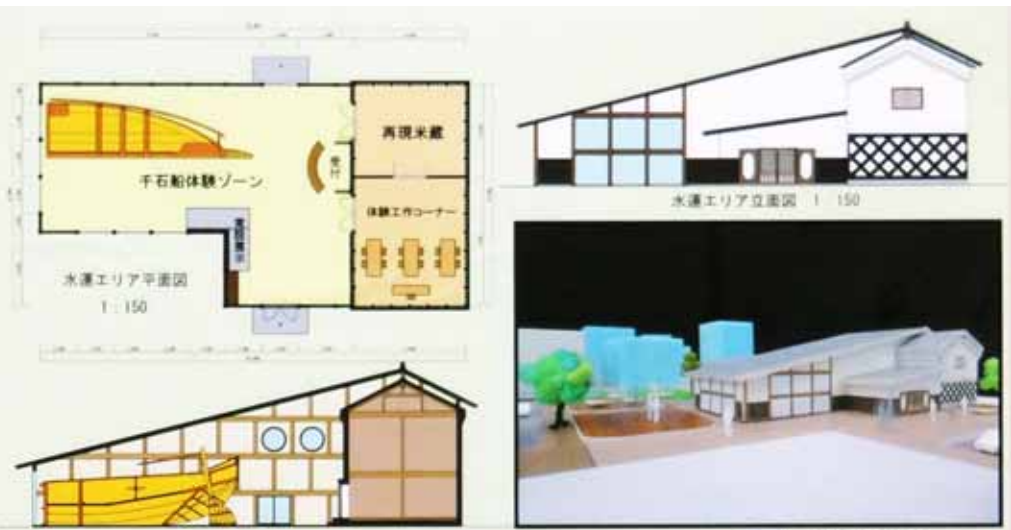
「蔵守」は歴史を守りながらも、石巻を観光という面から復興を助ける場所となります。そして、石巻の歴史とマンガの街としての良さを将来に向けてつなげていく拠点とします。復興の途上の石巻の商店街にはまだまだ空き家があります。この計画もまだ発展途上段階です。「蔵守」を商店街に広げていき、石巻の復興の原動力としています。

歴史を守る石巻の町並み

「蔵守」周辺地図



「軽業丸陶器店」は、昭和5年に建設された木造三階建ての商店です。外観は道路に面する二面が全面タイル張りになっており、洋風のモダンなデザインとなっています。軽業丸は、江戸時代には東北と江戸との交易を行っていた石巻の船名です。東北の産物を江戸まで運び帰りは、陶器を運んで帰ってきました。そこから陶器屋に転じ、本店となったのが「軽業丸陶器店」です。こうした石巻に根ざした建築物です。一社自内所として計画している



水運エリア断面図 1:150

水運エリア立面図 1:150

水運エリア平面図 1:150

水運エリア外観



敷地面積	2104㎡
A棟敷地面積	236㎡
B棟敷地面積	270㎡

一石巻駅方面

石ノ森サンパル方面

「蔵守」配置図 1:400



石巻建築史エリア外観

石巻建築史エリア

石巻建築史エリアは、津波で被害を受け、使われなくなった商店をリノベーションして設けます。石巻には、こうした空き家が多数ありこれからの発展の鍵になります。石巻建築史エリアはその活用方法のモデルとなります。この施設は、今まで注目されてこなかった建築物に光を当てる場所となっています。石巻を訪れた観光客が石巻のたどってきた歴史に触れる場所です。また、売店も設けているので石巻のお土産にも困りません。石巻の新しい名所です。



石巻建築史エリア立面図 1:150



石巻建築史エリア平面図 1:150